

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170401798		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15 (電話) 011-695-3003		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月25日	評価確定日	平成22年4月5日

【情報提供票より】(平成 22年 3月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 3月 17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人、	非常勤 1人、 常勤換算 14.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:24,000円 暖房費:9,000円(11-3月)
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日あたり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(3月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.3 歳	最低 72 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医) 星置駅前内科医院、医) 拓心会紺野整形外科クリニック、 どうかい歯科クリニック
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の主要幹線道路近くの住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。建物は築4年と新しく、広々とした温かみのある造りで、浴室やトイレ、エレベーターなどの設備も充実しており、清潔に保たれている。共用空間には家族も参加して作成した装飾品が数多く飾られており、親しみやすく、季節感のある雰囲気となっている。管理者を中心に明るく親切なサービスを提供しており、利用者一人ひとりの希望やプライバシーも尊重されている。利用者が楽しめるようレクリエーションを工夫して新しい楽しみごとを取り入れたり、個別の外出支援が行なわれている。医療面では独自の定期・健康管理(医療連携)記録を活用し、医療機関と連携して支援し、利用者や家族の安心につなげている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の取り組み項目は、地域との付き合い、運営推進会議、介護計画の見直しなどの項目について具体的に改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニットごとに1組ずつ白紙の評価表を用意し一定の期間を決めて全職員に記入してもらっているが、全ての項目は記載されず理解が十分とはいえないので、各職員が一層の理解を深め責任を持って取り組めるよう、ガイドブックを解説したり、分担を決めるなどして計画的に作成されることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は昨年9月以降、2ヶ月に1度、定期的で開催しており、地域包括支援センター職員、町内会長、町内会総務副部長、複数の利用者家族などが参加している。運営報告や研修報告、行事、虐待などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、また家族の来訪時や運営推進会議の際、介護計画を説明する際などに家族の意見を聞いている。重要事項説明書には事業所の他、本社や国民保険団体連合会、市などの苦情受付機関も明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩した際に近所の人たちと気軽に挨拶を交わしており、畑の作物や花のおすそ分けをもらったりしている。町内会に加入して、春には総会やごみ拾い、草取りに参加する予定である。お琴、尺八、フラダンス、清掃などのボランティアの方が来てくれたり、職員の子供たちが事業所を訪れてくれるなど地域との交流は盛んである。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他に事業所独自の運営理念を作り上げており、穏やかな生活、利用者の尊重、人としての関わりを重視している。一方、前回の外部評価からの課題である「地域との関わりや交流」に関する項目はまだ盛り込まれていない。		事業所独自の理念に、地域との関わり合いや交流に関する項目を追加するとともに、より分かりやすい理念とされるよう検討を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は玄関や事務所、職員の休憩室に掲示しており、職員は理念を理解し共有している。理念の中にある、利用者の尊重、人としての関わりなどの言葉を意識し、利用者一人ひとりに配慮した介護に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩した際に近所の人たちと気軽に挨拶を交わしており、畑の作物や花のおすそ分けをもらったりしている。町内会に加入して、春には総会やごみ拾い、草取りに参加する予定である。お琴、尺八、フラダンス、清掃などのボランティアの方が来てくれたり、職員の子供たちが事業所を訪れてくれるなど地域との交流は盛んである。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットごとに1組ずつ白紙の評価表を用意し一定の期間を決めて全職員に記入してもらっているが、全ての項目は記載されず管理者が補足し取りまとめている。前年の外部評価の取り組み項目は、地域との付き合い、運営推進会議、介護計画の見直しなどの項目について具体的に改善に取り組んでいる。		自己評価について各職員の理解を深め、それぞれが責任を持って取り組めるよう、ガイドブックを解説したり、分担を決めるなどして計画的に作成されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年9月以降、2ヶ月に1度、定期的に開催しており、地域包括支援センター職員、町内会長、町内会総務副部長、利用者家族などが参加している。運営報告や研修報告、行事、虐待などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員に運営推進会議で情報提供をしてもらっている。市の保護課職員と情報交換する機会も多い。管理者が認知症サポーターとして地域での啓蒙活動を行ったり、区のふれあいイベントに協力し区民の見学者を受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に直接利用者の状況や職員の交代を報告している。金銭出納は毎月本社より家族に報告されている。また、家族に利用者の様子を伝えるお手紙を個々に作成しているが、事業所全体の様子が分かる「ホーム便り」などは作成されていない。		行事や運営推進会議の案内、職員の交代、日々の様子など、事業所全体の様子が分かる「ホーム便り」を定期的に作成して家族に提供されるよう期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、また家族の来訪時や運営推進会議の際、介護計画を説明する際などに家族の意見を聞いている。重要事項説明書には事業所の他、本社や国民保険団体連合会、市などの苦情受付機関も明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動の際にダメージが起きないように、1階と2階の職員の交代研修を行なっている。職員が離職する場合は利用者には「異動」と伝え、精神的ダメージを緩和している。また、半月程度の引き継ぎ期間を設けたり、新しい職員は3回程度2名での夜勤を経験してから単独の夜勤に入っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社が主催する管理者の社内研修が毎月開催されており、今後は一般職員についても社内研修を強化する方針としている。外部研修には各職員が年に1回程度参加できており、研修後は報告書を提出し報告会も行なわれている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は区の管理者会議や社内の管理者研修で他のグループホームと交流機会を持っている。一方、管理者以外の職員は他のグループホーム職員と交流する機会がほとんどない。</p>		<p>職員も他のグループホーム職員と交流する機会が持てるよう、グループホーム間のネットワークを活用して勉強会や相互訪問の活動に取り組むことを期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新たな利用希望者は利用開始前に、おやつやレクリエーションの時間に見学に来てもらい、他の利用者や職員と触れ合って、納得した上で利用を決めている。利用開始後は本人の希望に応じて他の利用者との関わり度合いを調整して早く生活に馴染めるよう支援している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>材料の切り方や料理の味付け、調味料の使い方、縫い物や昔話など職員が利用者に教えてもらうことも多くある。また、トイレ介助や洗濯物を返した時などには、職員に感謝の言葉をかけてくれる場面もある。普段から歌やゲームで利用者や職員と一緒に楽しんでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を言葉で表わすのが困難な利用者も表情や行動パターンをカンファレンスを通して職員間で共有し、本人の希望を把握している。また、利用者ごとにセンター方式のアセスメントシートを作成し、利用者の生活歴や嗜好などの情報を把握・蓄積している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時に本人や家族の希望に基づき暫定の介護計画を作成し、1ヶ月後、2ヶ月後にカンファレンスを行なって計画を見直している。毎週の医療関係者の指導も介護計画に反映され、日々の記録も介護計画に連動している。介護計画は家族に説明され、署名・捺印を受けている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は原則3ヶ月での見直しが行なわれている。毎月のカンファレンスの中でモニタリングを行ない、職員の意見交換の上、必要な利用者について介護計画の内容を見直している。状態の変化があれば都度の見直しも行なわれている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の希望に沿って、個別の買い物や喫茶店などへの外出支援を行っており、かかりつけ医への通院支援も行なっている。また、月1回の訪問理容も利用している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関による週1回の往診や、訪問歯科の受診を受けている。提携医以外の受診を希望する場合の通院支援も行なっている。また「定期・健康管理（医療連携）記録」を作成し、健康状態や受診内容を記録しており、家族に適切な報告がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化した場合の事業所として対応可能な範囲や提携医が紹介できる医療機関・施設などを説明している。また「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、家族に説明して書類を取り交わしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮し、普段の声かけや声のトーン、トイレ誘導の方法などに注意を払っている。また、個人の記録は事務所に保管し、夜間は鍵を掛けている。記録する際も他の利用者が見えないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが利用者は自由に自分のペースで過ごすことができ、遅く起床した場合でも後から朝食を取れるようにしている。レクリエーションの参加も本人の気分に合わせ、無理強いしないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	静かな音楽をかけ、利用者と職員が会話しながら楽しく同じ食事を取っている。調理の補助や下膳、後片付けなどできることを利用者に手伝ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	往診のある水曜日以外は毎日入浴が可能で、各利用者が週2～3回程度入浴している。シャワーを併用して毎日のように入浴している方もいる。拒否がある方にはお風呂という言葉を使わず誘導を工夫している。お湯の温度や入浴の長さ、入浴剤なども希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ、食前食後の挨拶など利用者が個々の能力に応じて役割を持ち手伝ってくれている。塗り絵やペン習字、編み物、裁縫などの趣味を継続している方もいる。レク活動はホワイトボードを利用した地名などを当てるゲーム、風船バレー、トランプやカルタなどで楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように近くの公園まで散歩したり、近くの花壇を見たり、ドラッグストアに買い物に行っている。冬場でも天気の良い日に散歩したり、ホーム前の駐車場などで外気浴をしている。年間行事では、菜園作り、花見、紅葉観賞などで外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけることなく、自動ドアでいつでも外出できるようになっている。ユニットの出入口付近に事務所があり、外出がある場合は分かるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っており、スプリンクラーも7月に設置する予定である。町内会にも災害時の協力依頼を行っており、5月の避難訓練では住民の参加も得られる予定である。一方、救急救命訓練については定期的な受講を行っていない。		救急救命訓練について各職員が2年に1回程度定期的に受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材提供会社である本社の管理栄養士が作成しており、食事ごとのカロリーや栄養バランスが調整されている。日々の記録に食事や水分の摂取量を記録し、個々の健康状態や体重変化に応じて調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く開放的な造りで、利用者の写真や手作りの作品、季節の装飾などが施され、落ち着ける雰囲気となっている。トイレや浴室も広く使いやすい。また明るさや温度、湿度なども調整され快適に過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自由にタンスや戸棚、テレビ、家族の写真など馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも絵やカレンダーなど利用者が自由に飾り付けをすることができている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。